

東京は、都市計画を求めた——

「都市計画」の歴史社会学

戦間期東京が描く近代都市の理想と現実 合評会

評者 吉江 俊（東京大学）
南後由和（法政大学）
近森高明（慶應義塾大学）

著者 中川雄大（明治大学）
司会 林 凌（武蔵大学）

2026年10月18日（日）14:00-18:00

明治大学駿河台キャンパス リバティータワー1011教室

要参加登録・ハイブリッド開催

主催：JSPS科研費 JP25K16799 共催：成城大学グローバル研究センター

参加登録フォーム



近代都市計画は、「都市」をどのように構想したのか。

そしていかにして、この構想へと人々を巻き込んできたのか。

中川雄大著『「都市計画」の歴史社会学——戦間期東京が描く近代都市の理想と現実』は、およそ100年前の戦間期東京を舞台に、行政、専門家、メディア、市民など多様なアクターの関係に注目しながら、都市計画が単なる制度や技術の次元を超え、「都市」という概念を創出し、社会を説得し、合意を形成しようとする実践でもあったことを描き出した。

本合評会では、都市工学・建築学、メディア論、社会学を横断しながら独自の都市論を展開してきた吉江俊氏（東京大学）、南後由和氏（法政大学）、近森高明氏（慶應義塾大学）を評者に招き、本書の意義と課題を多角的に検討する。戦間期東京の都市計画史をめぐる議論にとどまらず、現代都市における計画、公共性、専門知、生活空間のあり方、さらには現代における都市論のゆくえを学際的な視点から考える場としたい。

「都市」はいかに構想され、語られ、実現されてきたのか。またその過程で何を取りこぼされてきたのか。都市を語る言葉は、都市空間の形成とどのように関わってきたのか。そして、今私たちが生きるこの「都市」は一体いかなる意味で「都市」なのか。

近代都市／計画の歴史と現在をあらためて問い直す。本会がその機会を提供できれば幸いである。



タイムテーブル

14:00-14:05	司会	趣旨説明	15:50-16:00	休憩
14:05-14:35	中川雄大氏	著書解説	16:00-16:30	著者リプライ
14:35-15:00	吉江俊氏	コメント	16:30-17:00	評者再リプライ
15:00-15:25	南後由和氏	コメント	17:00-17:30	フロア質問
15:25-15:50	近森高明氏	コメント	18:00-20:00	懇親会（希望者のみ）